

AMDA

年次報告書

2024年度

2024.4.1 ~ 2025.3.31

国連経済社会理事会総合協議資格NGO
特定非営利活動法人アムダ（AMDA）



☎ 086-252-7700

🌐 <https://amda.or.jp/>

📍 岡山県岡山市北区伊福町3-31-1



■理事長挨拶

平素より、AMDAの活動を温かく支え力強く見守ってくださっている皆様に、心より御礼申し上げます。

世界のどこかで災害や紛争、貧困の影響を受け、今この瞬間も支援を必要としている人がいます。その一人一人の命に思いを馳せ、「救える命があればどこまでも」という言葉を胸に、私たちは歩みを止めず活動を続けてきました。

2024年度は、ウクライナでの人道支援や能登半島での豪雨災害への緊急対応、フィリピンの台風被災地での医療支援、ミャンマー大地震の被災者支援など。予測を超える出来事に直面しながらも現地の人々と力を合わせ、必要とされる支援を届けてまいりました。

さらに、インドやネパール、カンボジアなどアジアの国々で地域に根ざした保健活動や教育支援に取り組み、モンゴルでは内視鏡技術の普及を通じて人材育成を進めることができました。こうした多様な活動の一つ一つは、決して私たちだけでは成し遂げられないものです。

私たちが現場に立ち続けられるのは、目に見えないところで応援してくださる皆様のおかげです。支援が届いたとき、安堵の表情を浮かべる人々の姿、困難の中で未来を諦めずに進もうとする人々の声、そのすべてが、皆様のご支援が生んだ大切な変化だと感じています。

この年次報告書では、2024年度に私たちが行った活動の記録をお届けいたします。紙面を通じて、皆様のお気持ちがどのように人と地域の力になったのかを感じていただけたら嬉しく思います。

そして、これから先もAMDAが人道支援に取り組む中で、同じ志を分かち合える仲間として共に歩んでいただけることを心から願っています。

おかげさまで昨年、AMDAは創立40周年を迎えることができました。40年という時間の中でさまざまな国や人とつながり、支え合いながら、一人でも多くの命を救うために活動してまいりました。この歩みを未来へつなげるために、これからも私たちは柔軟な発想と行動力を持って、医療を軸にした人道支援を続けてまいります。

今後とも、変わらぬご支援とあたたかいお力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人アムダ 理事長

佐藤 拓史

AMDAの理念

多様性の共存

AMDAのモットー

救える命があればどこまでも

AMDAの人道支援3原則

- 1.誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある
- 2.この気持ちの前には、国境、民族、宗教、文化等の壁はない
- 3.援助を受ける側にもプライドがある

AMDAの平和の定義

「今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる状況」

平和の阻害要因

災害 紛争・戦争 貧困

GPSP

Global Partnership for Sustainable Peace
世界平和パートナーシップ

人道支援活動を通じてAMDAの価値観を
啓蒙することで、平和を実現していくのが、
世界平和パートナーシップ（GPSP）事業。

GPSP事業は、
平和構築・健康増進・教育支援・生活支援の
4分野に分類されます。

生活支援

平和構築

教育支援

健康増進

【GPSPプログラムコンセプト】

- 1.開かれた相互扶助
- 2.パートナーシップ
- 3.ローカルイニシアチブ

GPSPプログラム 分類表

平和構築	健康増進	教育支援	生活支援
①緊急支援	①プライマリーヘルスケア事業	①グローバル人材育成事業	①農業事業
②復興支援	②医療支援事業	②こども食堂プラットフォーム	②食事支援事業
③災害対応プラットフォーム a) 南海トラフ災害対応 プラットフォーム b) 災害鍼灸 c) 災害医療機動チーム	③友好病院事業	*プライマリーヘルスケア(AMDAの考える定義): 貧困の環境下での健康増進を目的とし、以下3種類の 活動を含むものが望ましい。 ①住民参加 ②知識を広める活動 ③社会的および経済的改善に向けての活動	
④世界災害医療プラットフォーム			

平和構築

1. 緊急支援活動・・・4
 - ウクライナ人道支援活動
 - 能登豪雨災害被災者緊急支援活動
 - 台湾・花蓮県地震被災者支援
 - アフリカ・スーダン支援
 - フィリピン台風被災者緊急支援活動
 - アフガニスタン医療支援
 - インドネシア・マカッサル洪水被災者支援
 - 岩手県大船渡市林野火災物資支援活動
 - ミャンマー大地震被災者支援活動
2. 復興支援活動・・・11
 - 東日本大震災復興支援活動
 - 令和6年能登半島地震復興支援活動
 - ハイチ国内避難者医療支援
3. 災害対応プラットフォーム・・・13
 - AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム
4. その他・・・14
 - AMDA40周年記念会議
 - 2024年度 大使館訪問

健康増進

1. プライマリーヘルスケア事業・・・15
 - インド・ビハール州ブッダガヤ AMDAピースクリニック母子保健事業
 - ルワンダ学校保健プロジェクト
2. 医療支援事業・・・16
 - モンゴル内視鏡技術協力事業
 - ネパール内視鏡技術移転事業
3. 友好病院事業・・・17
4. その他・・・18
 - ネパール・ブトワル市より副市長およびAMDA関係者が来日
 - カンボジア・医学および健康に関する青少年フォーラム

教育支援

1. グローバル人材育成事業・・・19
 - AMDA中学高校生会
2. こども食堂プラットフォーム・・・19
 - AMDAこども食堂プラットフォーム
3. その他・・・20
 - 新学期を迎えたインドの児童・生徒へ教科書を支援
 - インドの児童・生徒へ制服、文房具などを支援

生活支援

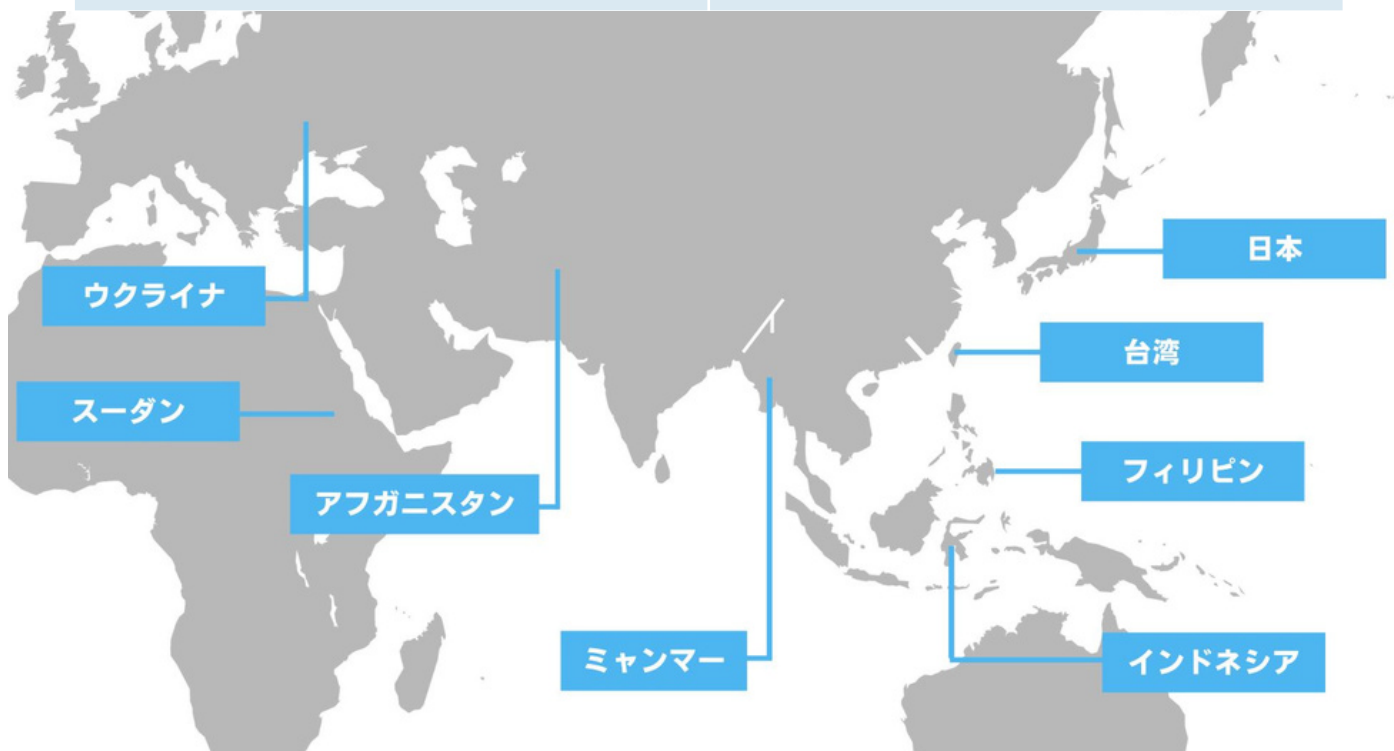
1. 農業支援事業・・・21
 - AMDAフードプログラム
 - インド・ブッダガヤでの農業事業
2. 食事支援事業・・・22
 - インド・ブッダガヤでの食事支援『AMDAあおぞら食堂』
 - 岡山近隣の大学生や留学生、外国人にお米を提供
3. その他・・・23
 - インド・ブッダガヤ：熱波に苦しむ貧困世帯に扇風機を提供
 - インド・ビハール州 井戸建設事業

巻末資料

国内の動き
連携協力協定調印
団体概要
AMDA役員
会計資料

2024年度緊急支援活動時系列一覧

支援活動	活動期間
ウクライナ人道支援活動	2022年3月7日～継続中
アフリカ・スーダン支援	2023年5月25日～2024年9月23日
台湾・花蓮県地震被災者支援	2024年4月18日
能登豪雨災害被災者緊急支援活動	2024年9月21日～10月1日
フィリピン台風被災者緊急支援活動	2024年10月23日～12月4日
アフガニスタン医療支援	2024年12月11日～2025年2月4日
インドネシア・マカッサル洪水被災者支援	2024年12月
岩手県大船渡市林野火災物資支援活動	2025年3月5日～3月31日
ミャンマー大地震被災者支援活動	2025年3月28日～継続中



ウクライナ人道支援活動

2022年3月7日～継続中

受益者数 4,498人以上

実施場所 ウクライナ/ハンガリー

2024年度派遣者

榎田 倫道/看護師 (日本・オランダ資格)

難波 妙/調整員/AMDA副理事長

2022年2月のウクライナ人道危機発生から3年が経過。

AMDAは人道危機発生直後から、情報収集を行い、地元の医療者たちと共に、ウクライナからの避難者への診療と、避難生活を送る方への支援も行った。

2024年7月上旬、AMDAは調整員2人をハンガリーに派遣。現地協力団体と今後の活動について調整した結果、支援を継続することが決定した。

現在、AMDAは、4カ所の現地協力団体と共に支援活動を行っている。

これまでに、ウクライナ内外に暮らす避難者、のべ約30,000人を支援した。

(2024年12月時点)



ハルキウ近郊の町から避難してきた4歳の少女。アデノイド肥大により半年以上聴力を失い、音が聞こえない生活を強いられていた彼女は、無償手術を受けた患者の1人。術後に音が聞こえた瞬間、驚きと喜びに包まれていた。病院関係者とも信頼関係を築いていた彼女は、退院の日、スタッフとの別れを惜しんだ。

2018年に設立された小児リハビリセンター
現在、紛争地域から避難した子どもを含む225人が登録
1日に最大20人がリハビリを受けている

セントミッシェル小児総合リハビリセンター

(ウクライナ・ザカルパッチャ州ウジホロド)

● 医療支援

近隣病院からの要請を受け、重篤な心疾患、肝疾患、がんの患者などに対して医薬品の支援。

● 物資支援

地元からの要請を受け、戦闘地域からの避難者と、避難者を受け入れているコミュニティに対して物資・食糧を支援した。

● その他

1日平均20人の子どもたちに、言語療法、音楽療法、プールの中で行う水中療法、ホースセラピーなどのリハビリを継続的に行っている。センターの光熱費に対してもAMDAの資金が活用された。



耳鼻咽喉科を専門とするメディカルセンター

ダイナスティメディカルセンター

(ウクライナ・ハルキウ州ハルキウ)

● 医療支援

何も持たず避難し失業している人などに、必要に応じて無料で治療を提供。AMDAからは医薬品、医療資材を支援。

● 物資支援

物価が上がり経済的に厳しい状況を受け、周辺住民20人に対して食糧を配布。



緩和ケアやリハビリを必要とする子どもやDV・貧困などにより
困難な生活を強いられている女性と子どもへの支援を目的に、2016年に設立
2022年人道危機発後は、戦闘地域からの避難者も受け入れている

City of Goodness

(ウクライナ・チェルニウツィー州チェルニウツィー市)

岡山県と岡山県商工会議所連合会主催の会議にて、ご紹介いただいた、
コルンスキー・セルギー駐日ウクライナ特命全権大使閣下より、ウクライナ
国内で活動する団体として、ご推薦いただき、新たに今年度よりAMDАの現地
協力団体として活動を開始。

医療支援

生後1カ月から14歳までの子どもを対象としたホスピス『バタフライ・ハウス』を運営。ここで使用する医薬品・医療資材の一部をAMDАが支援。

物資支援

同団体が運営する施設には、紛争地域に近いウクライナ南部・東部から避難してくる女性と子ども、家庭内暴力や経済的な理由で住む場所を必要とする人々が約300人が暮らす。AMDАはそこに暮らす人の食糧を支援している。



ウクライナの隣国ハンガリーの首都ブダペストを拠点に活動する医療団体
ウクライナ人道支援活動初期からAMDАと協力関係

メドスポット

(ハンガリー・ブダペスト)

医療支援

2022年11月以降、月1回、2日かけて、避難者が暮らすウクライナ西部ザカルパッチャ州の学校など4カ所の避難所を同団体が所有する救急車で巡回。2日間で約100人から120人の患者を診察し、必要に応じて提供する薬はAMDАから支援。

その他

戦闘地域を含むウクライナ全土を対象とした、ウクライナ人の心理カウンセラー・精神科医によるオンラインカウンセリング、地元の団体を通じたウクライナ各地の医療機関への医療資材の提供も行っている。

ウクライナ人道支援活動

◆受益者・関係者の声◆

AMDАの支援により、多くの患者に手を差し伸べることができます。同時に、患者への支援にかかる私たちの金銭的負担も軽減されとても助かっています。

危機勃発以前から地元の住民に親しまれている医療機関が閉鎖することなく、住民の健康を守ることで、地元の人々の精神的な支えにもなっています。

日本の支援者の皆様に心から感謝します。いただいた支援のおかげで、私たちは多くのウクライナ国内避難者に対して、定期的に医療支援を行うことができます。

今では患者さんが身体だけでなく心の不調も打ち明けてくれるようになりました。これは、3年間の巡回診療を通じて、信頼関係を築くことが出来たからこそだと考えています。



能登豪雨災害被災者緊急支援活動

2024年9月21日～2024年10月1日

受益者数	37人	実施場所	石川県輪島市
派遣者	山口 大輔/鍼灸師/AMDA緊急救援ネットワーク、林 篤志/鍼灸師/AMDA緊急救援ネットワーク、大西 彰/調整員/AMDA職員、小川 直美/看護師/AMDA職員		

被災地における鍼灸支援を実施

2024年9月21日、石川県奥能登地域で線状降水帯による大雨により大規模な水害が発生。9月23日にAMDAは調整員と看護師を現地に派遣し、ニーズ調査を開始した。

輪島市保健医療福祉調整本部と協議の結果、鍼灸支援を実施することが決定。輪島市保健医療福祉調整本部から指示のあった老人介護施設の職員に対し、9月28日から10月1日までの4日間にわたり施術を行った。

介護施設の職員の方は自身も被災された立場でありながら施設入所者の方の生活を支えるため、日々仕事に励まれていた。施術を受けた方の多くに肩こり、腰痛、慢性疲労などの症状が見られた。今回鍼灸治療を受けるのが初めてという方も多かったが、ほとんどの方が施術後にその効果を実感されていた。

また断水が続いている施設に対して飲料水の提供も行った。



台湾・花蓮県地震被災者支援

2024年4月18日

被災者数	1,183人	実施場所	東京都港区
派遣者	難波 妙/AMDA副理事長		

被災地・台湾への想いと支援のかたち

2024年4月3日、台湾東部の花蓮県近海を震源とするマグニチュード7.7の大地震が発生した。

この災害に対して、AMDAは発災直後から台湾衛生省（保健省）やAMDA台湾支部と連携し、日本からのチーム派遣を視野に入れて協議を進めていたが、台湾側の迅速な対応を踏まえ、日本からの派遣は見送ることとなった。



しかし、これまでの活動を通じて築いてきた台湾との協力関係に基づき、相互扶助の精神の下で、何か力になりたいと台湾側に伝えた。

その結果、元台湾医師会会長から東京にある台北駐日経済文化代表処を通じた募金が提案され、台北駐日経済文化代表処の政務部部長・傅国華様に支援金をお渡しした。

傅国華様から、1999年の台湾地震で2,400人以上が犠牲となったことに比べ、今回の同規模の地震で死者数が18人に留まった背景には、防災・減災に対する政策と個人の意識の向上と努力があったと伺った。

台湾と日本は、これからもお互いの深い友好関係を基盤に被災経験を共有し、さらなる災害対応に活かしていかなければならないと確認した。

アフリカ・スーダン支援

2023年5月25日～2024年9月23日

受益者数	24人	実施場所	スーダン
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAスーダン支部		

人道危機下におけるAMDAの緊急支援活動

スーダンでは2023年4月、国軍と準軍事組織『即応支援部隊（RSF）』の衝突により内戦が再燃した。首都ハルツームでは医療・教育機関やライフラインが機能を失い、市民は食料や水の確保も困難となっており、戦闘の激化により、多くの市民が住居を追われ、避難生活を強いられている。

AMDAはスーダン支部と連携し、ハルツームおよび周辺から比較的安全な地域へ避難した7世帯・24人を対象に経済的支援を実施した。支援は、ひとり親世帯や幼い子どもを抱える家庭など、特に支援の必要性が高い世帯を中心とした。

今後も現地と連携し、状況に応じた支援を継続していく所存である。

フィリピン台風被災者緊急支援活動

2024年10月23日～2024年12月4日

受益者数	1,400世帯と1,287人	実施場所	フィリピン・ビコール地方 /カラバルソン地方
派遣者	西アニー/調整員/岡山倉敷フィリピーノサークル、小川直美/看護師/AMDA職員		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAフィリピン支部、Asian Center for Excellence in Development & Security、ヌエバ・カセレス大学、南カマリネス州ポリテクカレッジ、カマリネス州医師会、ソルソゴン州医師会、フィリピン看護協会カタンドゥアネス支部、カタンドゥアネス島ボーイスカウト、Youth for Environment、カタンドゥアネス大学看護学生、各地元自治体・ボランティア		

フィリピンに寄り添う支援——7カ所の被災地で緊急支援活動実施

2024年10月22日にフィリピンの東の海上で発生した台風20号に伴い、AMDAは、フィリピン支部および現地協力団体とともに、ルソン島ビコール地方とカラバルソン地方において緊急支援活動を実施。台風20号を皮切りに、1カ月間で6つの連続した台風がフィリピンに上陸したことを受け、被害の大きかったルソン島を中心に7回にわたって支援活動を行った。

医療支援活動では、高血圧、風邪症状、筋肉痛を訴える方が多く見られ、重篤なケースが疑われた場合は、最寄りの医療機関に紹介した。また、氾濫した水の中を歩くことで傷を負い、真菌感染を起こしている例も見られた。



被災した世帯を対象とした物資支援においては、手桶、タオルなどの日用品を提供。加えて、お米をはじめとした食糧も配布。一方、子どもを対象としたメンタルヘルスプログラムも実施した。

AMDAは現地協力者からの支援要請を受け、11月22日、日本から看護師1人、調整員1人を現地に派遣し、11月26日に物資支援を行った。

日本からの支援は大変感謝され、カタンドゥアネス島パンガニバン町と看護協会から賞状を授与された。

アフガニスタン医療支援

2024年12月11日～2025年2月4日

受益者数	331人	実施場所	アフガニスタン・カブール
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAアフガニスタン支部		

アフガニスタン強制帰還者への支援を実施

2021年8月からタリバンによる支配が続いているアフガニスタンでは、貧困が深刻化し壊滅的な人道危機にある。*UNHCRによると、2025年1月時点でアフガニスタン難民は推定590万人にのぼる。さらに、2023年から隣国パキスタンが不法滞在のアフガニスタン人の強制送還を実施し、彼らはより脆弱な立場に置かれてきた。

この状況を受けAMDAアフガニスタン支部が運営する日本アフガニスタン友好病院は、強制送還された帰国者を対象に、無償で医薬品の提供、小児科、内科、婦人科の診察および臨床検査を実施。受益者の1人は、帰国後に直面した圧倒的な経済的負担から、無償の医薬品と臨床検査がいかに自身を解放してくれたかを語った。

このような人道支援活動の継続を強く求める声が上がっていることを受け、日本アフガニスタン友好病院は、脆弱な立場にある人々を支援し続けることを目指し、今後ともAMDAインターナショナルとの協力のなかで、支援を拡大していきたいと表明した。



*UNHCR…国連難民高等弁務官事務所（The office of the United Nations High Commissioner for Refugees）の略称で、1950年に設立された国連の難民支援機関

インドネシア・マカッサル洪水被災者支援

2024年12月

被災者数	236人以上	実施場所	インドネシア・マカッサルほか
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAインドネシア支部、現地学生団体 現地医学生・医療専門家からなるボランティアチーム		

インドネシア洪水被災地での医療と衛生の支援

2024年12月、インドネシア・マカッサルで、度重なる大雨の影響により洪水災害が発生し、住民は避難生活を余儀なくされていた。

これに対しAMDAインドネシア支部は、様々な学生団体と協力し、洪水被害を軽減する取り組みや、避難所における被災者への医療に重点を置いた支援を実施した。

AMDAインドネシア支部は、被災者支援のため、医学生と医療専門家からなるボランティアチームを派遣。チームは、14人の避難者が暮らすマンダラや、222人の避難者が身を寄せるマンゴンシディ・バルなどにある主要な避難所に重点を置いて活動した。



避難所では、基本的な健康チェックに加え、洪水後の劣悪な衛生状態によって発生することの多い気道感染症、下痢、皮膚病などの症状を訴える患者に対して治療を行った。

また、感染症の蔓延を防ぐための予防接種や、避難所の清潔さと衛生状態を維持することの重要性についての教育を実施した。

岩手県大船渡市林野火災物資支援活動

2025年3月5日～2025年3月31日

受益者数	2,000人以上	実施場所	岩手県大船渡市
派遣者	坂本 正人/復興グルメF-1大会運営事務局代表/AMDA参与、太田 明成/復興グルメF-1大会運営事務局メンバー、菅原 尚美/南町紫神社前商店街事務局、菅原 哲也/地元ボランティア、杉浦 正規/東京ボランティア、小川 直美/看護師/AMDA職員		

復興の絆でつなぐ支援——大船渡林野火災にて

2025年2月26日、岩手県大船渡市で林野火災が発生した。
3月9日、大船渡市は延焼の拡大が収まったとして「鎮圧」を宣言。翌10日午前には、すべての避難指示が解除された。

ただし、この火災により100棟を超える住宅が被害を受け、被災住民の避難生活が続いていた。

こうした状況を受けて、宮城県・岩手県の地元関係者と大船渡市関係者との協議のもと、AMDAは、ティッシュや歯ブラシなどの生活必需品の物資支援を行うことを決定した。

支援活動の調整は、坂本 正人氏（AMDA参与）および太田 明成氏が中心となり、地元での物資調達が進められた。

3月11日には岡山のAMDA本部から看護師1人が気仙沼へ出発。翌12日には、坂本氏と太田氏に加え、気仙沼市からボランティア3人と合流し、第1便の支援物資を大船渡市役所に届けた。

さらに3月16日には、第2便の支援物資としてTシャツ1,000枚とバスタオル300枚が大船渡市に届けられた。



ミャンマー大地震被災者支援活動

2025年3月28日～継続中

実施場所	ミャンマー・ヤンゴンほか
派遣者	神徳 隆之/医師兼調整員/AMDA緊急救援ネットワーク 菅原 久美子/看護師兼調整員/AMDA緊急救援ネットワーク 小川 直美/看護師兼調整員/AMDA職員

ミャンマー大地震被災者への支援——届きにくい地域へも支援の手を

2025年3月28日、ミャンマー中部でマグニチュード7.7の地震が発生。AMDAはすぐ、長年協力関係にある現地団体People's Health Foundation（PHF）をはじめとしたミャンマー関係者と連絡を取り始め、4月4日に、医師1人、看護師2人からなる調査チームを日本からミャンマーに派遣した。



AMDA調査チームはPHFと協議した結果、医薬品の支援と経済的な支援を行うことを決定。

医薬品に関しては、地元関係者を通じて、抗菌薬、降圧薬、感冒薬、糖尿病薬などの必須医薬品をマンダレーの医療機関に寄付した。経済的な支援に関しては、首都ネピドー、マンダレー、バゴー、ザガイン管区と、シャン州の支援が届きづらい被災地計12カ所に支援金を提供した。

今後、汚染水の浄化装置、水、蚊帳、医薬品などの購入、地震により医療スタッフが不足している地域に、別の地域から医療者を派遣するための費用などに充てられる予定である。

東日本大震災復興支援活動 ①仙台市震災ホームレス支援

2013年～継続中

受益者数	2024年度 のべ200人	実施場所	宮城県仙台市
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	NPO法人仙台夜まわりグループ		

仙台市内の路上生活者への支援を実施

NPO法人仙台夜まわりグループは、仙台市内の路上生活者に、食事の提供、生活相談、衛生改善事業の一環として、シャワーや洗濯機・乾燥機を使用する機会を提供するほか、多面的なサポートを行っている。寝起きする場所を定期的に訪れる夜回り活動では、食事に加えて、カイロ、蚊取り線香、寝袋などの物品も配布。大人食堂では、衣類の配布、血圧測定、健康相談も行い、治療の必要な方の病院への付き添いもする。AMDAからは岡山米を提供、加えて、グンゼ様よりご支援いただいた下着を同グループに寄贈した。



東日本大震災復興支援活動 ②AMDA大槌健康サポートセンター

2011年3月12日～継続中

受益者数	2024年度 のべ373人	実施場所	岩手県上閉伊郡大槌町
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	佐々木賀奈子/AMDA大槌健康サポートセンター長、教室事業講師2人		

木工教室とオンライン健康セミナーによる地域支援の取り組み



木工教室では、地域の人が集いアイデアを出し合い干支の置物、パズル、ひょうたんランプ作りを通して交流の場となった。

健康増進セミナーでは、特にタンパク質不足から体のエネルギーが作られないこと、動脈硬化になることを防ぐための食事や運動についてなど、毎回体づくりの基本についてのオンライン講座を実施した。

受益者の声

「木工の作品を友人にプレゼントして喜ばれています。
次は苦手な糸鋸にもチャレンジしてみたい。」

東日本大地震復興支援活動 ③気仙沼・食料支援事業

通年（毎月1回）

受益者数	2024年度 のべ1,200人	実施場所	宮城県気仙沼市
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	坂本 正人/復興グルメF-1大会運営事務局代表/AMDA参与 菅原 尚美/復興グルメF-1大会運営事務局		

継続的な食料支援を実施

前年度に引き続き、各月のイベントに合わせて、生活再建中の地域住民への支援と地域のコミュニティの繋がりとなるよう、食料支援を行った。お米やカップラーメン、レトルト食品等を毎月100人分準備し、主に年金受給者、子どもを含む家族に配布した。10月には事務局代表の坂本 正人氏が、南海トラフを見据えた防災対策のため、津波の被害を受けた商店街に視察に訪れた愛媛県愛南町役場の職員（8人）の対応をした。

また東日本復興支援の一つである『復興グルメF-1大会』は、今年度、都合で開催できず延期となった。



令和6年能登半島地震復興支援活動

2024年8月5日～2024年8月7日、2025年1月20日～継続中

受益者数	252人以上	実施場所	石川県輪島市
派遣者	IPU・環太平洋大学サッカー部コーチ1人、サッカー部学生19人、榎田 倫道/看護師兼調整員、難波 妙/調整員/AMDA副理事長、小川 直美/看護師兼調整員/AMDA職員、大西 彰/調整員/AMDA職員		

被災地の今と向き合う——輪島での復興支援



能登半島地震の影響で、輪島中学校に暫定的に通っていた小学生たちは、2学期から各小学校の校庭に設置される仮設校舎に移動する予定であった。これを受けて、輪島市教育委員会を通じて調整した結果、輪島中学校の復興支援として、小学生が使っていた教室の掃除や、元々中学生が使用していた教室の机の移動などを行うボランティア活動をAMDAで行うことが決定。AMDAと連携協定を締結しているIPU・環太平洋大学のサッカー部の学生とコーチ、AMDAから看護師2人と調整員1人の総勢23人が活動に参加した。

2024年8月5日に岡山をバスで出発し、8月6日の午前8時30分から活動を始め、午前中で作業は終了。

午後からは、輪島中学校のサッカー部と今回の活動に参加したIPU・環太平洋大学のサッカー部の学生によるサッカー交流が行われた。

また、2025年1月20日には輪島市の『ごちゃまるクリニック』へ医療機器購入のための支援も実施した。

ハイチ国内避難者医療支援

2024年12月13日

受益者数	189人以上	実施場所	ハイチ・ポルトープランス市
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAハイチ支部、医師2人、看護師1人、医療アシスタント2人、調整員1人、ハイチ内務省2人		

AMDAハイチ支部、最大規模の避難キャンプで医療支援

ハイチでは、2021年7月の大統領暗殺事件および、その後の大地震やハリケーン等自然災害による混乱を経て、武装集団が首都圏を中心に多くの地区を支配している。

治安は危機的状況となり、国際移住機関（IOM）は、2024年10月時点で、ハイチで70万人以上もの人々が武力集団による暴力が原因で国内避難民となっていることを発表した。

AMDA ハイチ支部は地元からの要請を受け内務省による安全確保の下、同市内最大の避難キャンプ（2,700人が滞在）で医療支援活動を実施した。

AMDAハイチ支部の支部長、マック・ケビン・フレデリック歯科医師を中心とした6人のチームは、大人165人、子ども24人に対し、内科、歯科の診察、薬の提供等を1日かけて行った。

前回の活動から状況の改善は見られず、多くの避難者に頭痛、胃痛、発熱、高血圧、感染症、喘息、糖尿病、下痢、発疹、栄養失調等が見られ、治療の機会を得られないまま放置されていた。

また、中には精神的苦痛を抱えた人もいないかと懸念されている。数々のNGOが撤退する中、継続した支援が望まれている。



AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム

2015年～継続中 通年実施

実施場所

岡山県赤磐市、倉敷市、備前市、高知県須崎市、徳島県美馬市、阿南市

平時からつなぐ力——南海トラフ災害に備える連携のかたち

AMDAは、発生すれば死者30万人、被災者300万人にのぼると想定される南海トラフ巨大地震への備えとして、2015年に『AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム』を設立した。

このプラットフォームは、大規模災害時に孤立しやすい四国の徳島県・高知県において、迅速に支援活動を展開できる体制の構築を目的としており、その実現に向けて、自治体・医療機関・企業などが一体となって準備を進めている。

さらに、連携協定を締結している自治体や医療機関、経済団体と緊密に連携し、四国での訓練を通じた実地交流を重ねることで、平時からの関係強化と支援力の向上を図っている。

◆2024年度の主な取り組み

- ・支援に駆けつける医療機関と支援に入る高知県・徳島県の自治体との事前マッチング、事前交流、訓練を通じての交流などを実施
- ・2024年11月2日に第7回調整会議を予定していたが台風の為、延期

【訓練参加】

- ・2024年6月28日 徳島県美馬市主催『災害対策本部会議』見学
- ・2024年11月17日 岡山県赤磐市主催『令和6年度赤磐市総合防災訓練』パネル展示
- ・2024年11月30日 岡山県備前市主催『令和6年度備前市総合防災訓練』パネル展示と講演
- ・2025年2月9日 徳島県阿南市主催『令和6年度避難所開設・運営訓練』

AMDAチームとして、諏訪中央病院（3人）、AMDA兵庫（3人）、AMDA神女クラブ（4人）、防災海キャンプメンバー（3人）、*DiMOT（2人）、ハウエツ病院（4人）、AMDA本部（3人）参加

*DiMOT…岡山県の看護師が立ち上げた団体

【勉強会実施】

南海トラフ災害対応プラットフォームに参加されている医療機関を中心として会場とオンラインのハイブリット形式でミーティングを実施。

- ・2024年10月11日 第1回協力医療機関ミーティング 会場提供：倉敷中央病院
- ・2024年12月5日 第2回協力医療機関ミーティング 会場提供：倉敷成人病センター
- ・2025年2月28日 第3回協力医療機関ミーティング 会場提供：倉敷平成病院

【その他】

- ・2024年8月8日 高知県主催『南海トラフ地震防災対策について、高知県、高知市、須崎市、黒潮町との協定書に基づき南海トラフ地震防災対策協議会』参加
- ・2024年10月6日 高知県須崎市『市制70周年記念式典』に参加
- ・2024年10月8日 南海トラフプラットフォーム関連講演会
ご登壇：輪島中学校 元校長 永草 正彦先生 総社市教育委員会・赤磐市教育委員会にて開催
- ・2025年3月22日 岡山県備前市『市制20周年記念式典』に参加



AMDA40周年記念会議

2024年8月17日～8月19日

参加者数	116人	開催場所	インドネシア・バリ
主な参加者・団体	AMDA インターナショナル、AMDAインドネシア支部、AMDA インターナショナルと協力協定を締結したインドネシアにある14の大学代表者		
派遣者	菅波 茂/AMDAグループ代表、難波 妙/AMDA副理事長、あるちゃん・ジョシ/AMDA職員		

AMDA40周年記念会議を開催

AMDAは2024年8月に設立40周年を迎え、これを記念して8月17日から19日までインドネシア・バリで『AMDA40周年記念会議』を開催した。

会議にはAMDAインターナショナル32支部のうち13カ国・地域の支部長やメンバーが参加し、それぞれの活動報告が行われた。

また、2019年にAMDAインターナショナルと協力協定を結んだインドネシアの14大学の代表も出席し、AMDAインドネシア支部との共同活動について発表した。加えて、AMDAのパートナー団体の代表も参加し、共同プロジェクトに関する意見交換がなされた。

会議はAMDAインドネシア支部のメンバーや、*AMSAインドネシアの学生たちが中心となって運営し、民族衣装や伝統音楽を通じた文化交流も行われた。

今後の支援活動や災害対応に向けた連携の強化が確認され、AMDAインターナショナルの将来的な方針についても意見が交わされた。



*AMSA…アジア医学生連絡協議会

2024年度 大使館訪問

2012年～毎年

受益者数	駐日外国公館など 8公館1関係者
派遣者	佐藤 拓史/AMDA理事長、難波 妙/AMDA副理事長、あるちゃん・ジョシ/AMDA職員

大使館等表敬訪問及び有機米の贈呈



AMDAは、2012年より毎年、AMDAが活動する国と地域の公館および関係機関、関係者を表敬訪問し、1年間の活動報告とともに、感謝の意として岡山県真庭郡新庄村で収穫された有機米を贈呈している。

2024年度は、駐日モンゴル国大使館・在大阪フィリピン共和国総領事館、ウクライナ大使館、ネパール大使館、台北駐大阪経済文化弁事処を表敬訪問した。

また、AMDA海外支部のある国や地域、活動国の駐日大使館・領事館をはじめ協力機関に、有機米を贈呈した。

インド・ビハール州ブッダガヤ AMDAピースクリニック母子保健事業
2009年11月～継続中

受益者数	2024年度 のべ1,445人	実施場所	インド・ビハール州ブッダガヤ
派遣者	菅波 茂/医師/AMDAグループ代表、あるちやな・ジョシ/調整員/AMDA職員、 金高 摩耶/AMDA職員		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAピースクリニック（APC）		

予防と教育で守るいのち——APCの母子保健の取り組み

AMDAピースクリニック（APC）は2009年11月に開院し、2014年からブッダガヤにある2つの地区の妊産婦を対象とした母子保健事業を開始した。経済的困難を抱える妊産婦が多いため、予防と早期発見に重点を置き、月2回の妊婦健診、週1回のマタニティクラス、血液検査や薬の提供、超音波検査代の支援を行っている。

月2回行う妊婦健診は毎回約30人が受診し、診察後には必要に応じて薬や検査を提供。「知識不足と経済的な負担から超音波検査を勧められても受けない妊婦もいる。」という現地からの情報を受け、2023年からは超音波検査代の一部を支援している。これにより、多くの妊婦が定期的に検査を受けるようになり、医師が胎児の状態をより詳しく確認できるようになった。

毎週水曜日に開催する『マタニティクラス』は、妊娠・出産だけでなく、感染症や結核など地域の課題に応じた健康情報を週替わりで伝えている。クラス後には、農業事業で収穫した野菜を使った野菜スープやニンジンプリンなどの栄養価の高い軽食を提供している。



受益者の声

「近所の方にAPCを紹介していただき、2回目のマタニティクラス参加でした。今日は『赤ちゃんの栄養』について学び、普段の食事が赤ちゃんには刺激が強すぎることを知りました。新しい学びがあり、モリンガと野菜のスープも美味しくいただきました。ありがとうございました。」

ルワンダ学校保健プロジェクト

2024年7月18日～25日、10月～12月

受益者数	2024年度 1,297人	実施場所	岡山県岡山市、 ルワンダ・キガリ州、その他
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	特定非営利活動法人 ルワンダの教育を考える会（以下TER） 現地事務所、 キビリジ地区病院、他現地協力者		

ルワンダの子どもたちに健やかな未来を——AMDAの学校保健支援

2015年からAMDAはTERとともに、ルワンダの子どもたちの健康管理と死亡率の低下を目的として、学校保健事業の普及活動を行っている。

2024年7月18日には、ルワンダで学校健診活動を行うサフィナ医師が来日。岡山大学 頼藤 貴志教授（AMDA理事）の協力のもと、岡山市内の医療機関、保健所等で研修が行われた。

サフィナ医師は、日本の医療に感銘を受け、ルワンダでもすべての子どもたちが健診を受けられるように努力を続けたいと話された。

〈岡山市内での主な研修場所〉岡山医療センター（手術室・NICU）、岡山大学、ももたろうクリニック、青山こども岡山北クリニック、南区南保健センター、

サフィナ医師を中心とした医療チームは、同年10月から12月にかけてルワンダの4つの小学校で学校健診を実施。6人の児童の健康問題を見つけることができた。特に貧困地区にあるキビリジ小学校では、20人の児童が栄養不良の状態であることがわかった。健康問題が見つかった児童に対して医療機関の紹介や保護者への教育が行われた。



モンゴル内視鏡技術協力事業

2024年9月30日～10月5日

受益者数	17人	実施場所	モンゴル・ウランバートル市 (日本モンゴル教育病院)
派遣者	白井 保之/医師/小倉記念病院消化器内科主任部長、佐藤 拓史/医師/AMDA理事長、 難波 妙/調整員/AMDA副理事長		
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	日本モンゴル教育病院内視鏡医チーム		

モンゴル国内の医療技術向上を目的としたプロジェクト

AMDAは、2010年に締結したモンゴル国立医科大学との協力協定に基づき、2017年から2019年まで毎年、AMDA理事長 佐藤 拓史医師が同大学病院で内視鏡技術研修を行ってきた。

また、岡山県国際貢献『ローカル・トゥ・ローカル』技術移転事業の海外技術研修員として、同病院から2人の内視鏡医が岡山済生会総合病院で医療研修を受けている。

今回で8回目となるモンゴルプロジェクトは、本年度も小倉記念病院消化器内科主任部長・白井 保之医師と佐藤 拓史医師により、モンゴルの医師免許の下実施された。

今回行った内視鏡治療・検査は、以下の通り：

- ・胃静脈瘤に対する内視鏡治療（ヒストアクリル）3例
- ・内視鏡的硬化療法結紮術併用療法（EISL）1例
- ・食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法結紮術併用療法（EISL）6例
- ・ダブルバルーン小腸内視鏡 1例
- ・上部・下部内視鏡検査 6例

いずれの症例も、問題となるような合併症なく治療・検査を終了した。

このほかにも白井医師による専門講義や、佐藤医師によるシミュレーターを用いた下部内視鏡のトレーニングなども実施された。



ネパール内視鏡技術移転事業

2018年～現在

受益者数	2024年度 のべ220人	実施場所	ネパール東部ジャーパー郡ダマック市
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDA ダマック病院、AMDA ネパール支部		

AMDAダマック病院における技術指導と機材支援

AMDAダマック病院の医師は、2016年に岡山済生会総合病院で内視鏡技術を学んだ。その後、2018年と2019年に佐藤 拓史医師（AMDA理事長）がAMDAダマック病院を訪問し、技術指導を行った。

2019年12月には台湾IHA（International Health Association）から大腸カメラが寄贈された。

新型コロナ感染拡大の影響を受け、現地に行って指導することができなかったため、2021年にはオンライン研修が実施された。その後2023年には再び佐藤医師による技術指導が現地で行われた。

導入から約5年が経過した内視鏡スコープは、洗浄機の未整備により手作業での洗浄が続き、機器の劣化が進行していた。これに対し、2024年8月に台湾IHAから新たな内視鏡スコープが寄贈され、機材面での課題が解消された。



受益者の声

「新たな内視鏡スコープをいただき心より感謝したい。
AMDAダマック病院では内視鏡検査を実施して以来、多くの方が受診に来られ、地域住民の方々の健康に対する意識が高まったと思う。
今後も継続して内視鏡検査を実施していきたい。」

病院名	設立年	患者数 2024年度のべ	内容
ネパール・ AMDAMech病院	2008年	10,000人	【所在地】ネパール・ジャバ県メチナガル市 【診療科】内科 【スタッフ数】29人（医師5人、看護師4人）
ネパール・ AMDADamak病院	1992年	85,000人	【所在地】ネパール・ジャバ県ダマック市 【診療科】内科、外科、産婦人科、婦人科、小児科、 整形外科、耳鼻科、皮膚科、精神科、歯科 【スタッフ数】265人（医師36人、看護師95人）
ネパール・ シッダールタ 母と子の病院 通称：ネパール子ども病院	1998年	72,000人	【所在地】ネパール・ルンビニ郡ブトワル市 【診療科】内科、産婦人科、婦人科、小児科、外科、 整形外科、眼科、歯科 【スタッフ数】174人（医師26人、看護師60人）
ネパール・ シマズ歯科医院	1999年	800人	【所在地】ネパール・カトマンズ郡ジョルパティ市 【診療科】歯科 【スタッフ数】2人（医師1人）
日本アフガニスタン 友好病院	2011年	18,615人	【所在地】アフガニスタン・カブール 【診療科】内科、産婦人科、超音波診断、小児科、 耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科、検査室 【スタッフ数】15人（院長1人、医師5人、歯科医1人、 看護師2人、薬剤師1人、検査技師1人、 予防接種担当2人、清掃員2人）
日本バングラデシュ 友好病院	1994年	66,600人	【所在地】バングラデシュ・ダッカ 【診療科】いくつもの専門部門を有する大規模総合病院 【スタッフ数】324人（医師、医療技術者、その他含む）
日本モンゴル 友好病院	2012年	1,400人	【所在地】モンゴル・ウランバートル 【診療科】消化器内科、呼吸器内科（緩和ケア含む） 総合内科 【スタッフ数】11人（医師4人、看護師3人、 その他スタッフ）



ネパール・AMDADamak病院



日本モンゴル友好病院



日本バングラデシュ友好病院

ネパール・ブトワル市より副市長およびAMDA関係者が来日

2024年10月14日～18日

受益者数	3人	実施場所	岡山県岡山市、総社市、倉敷市、真庭市
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	総社市役所、真庭市役所、倉敷中央病院、大原芸術財団大原美術館、岡山商工会議所、岡山市市民病院、社会福祉法人若竹の園、岡山県立大学、真庭あぐりガーデン		

ネパール・ブトワル市副市長らが来日——日本の医療・福祉から学ぶ

AMDAネパール子ども病院の運営管理に協力しているネパール・ブトワル市の副市長サビトラ・デヴィ・アルヤル氏、ブトワル商工会議所の理事ザムナ・パウディル氏とAMDAネパール子ども病院の看護部長スシラ・ビスワカルマ氏の3人が10月14日から18日まで来日した。

一行は、総社市が行う障がい者支援、真庭市が廃棄物処理コスト削減のために取り組む、メタン発酵による生ごみの再資源化、岡山市市民病院および倉敷中央病院の最新医療技術などに関心を寄せた。

また、患者だけでなく、働くスタッフにも目を向け、スタッフ用の休憩スペースや保育園を整備し、働く環境を整えている倉敷中央病院の姿勢にも感銘を受けた。

日本での学びを活かし、女性の目線に加えて、政治家、起業家、医療従事者それぞれの視点から、ネパールにおける教育・行政・医療の発展に貢献していきたいと語った。



カンボジア・医学および健康に関する青少年フォーラム

2024年8月24日、2025年3月7日

参加者数	各120人前後	実施場所	カンボジア・プノンペン市
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAカンボジア支部、チェンラ大学、RCRC職業訓練センター、株式会社 山一観光（熊本県）、AMDA本部ほか		

未来の医療を担う若者たちへ——青少年フォーラム2024

2024年度、AMDAカンボジア支部は毎年恒例の青少年フォーラムを夏と春の2回に渡って開催した。

これまで医学生や看護学生を対象に、主にHIV・エイズや性感染症の予防啓発を目的に行われてきたが、近年では、女性の生殖行動と健康に関する権利等、時世に即したテーマを取り上げている。

第6回目と7回目を迎えた今年度は、医療者が急速に進化する科学技術といかに対峙すべきかを取り上げ、医療現場におけるAIやVR技術等の導入例を紹介。未来を見越して準備していくことの重要性を説いた。

なお、同支部が青少年の健全な育成を目的に行っている学生サッカー杯は、医師国家試験と重なったため、今年度は延期となった。

これら一連の活動は株式会社 山一観光様による長年のご支援により継続されている。



1. グローバル人材育成事業

AMDA中学高校生会

1995年～継続中

メンバー数	2024年度 41人	実施場所	岡山県岡山市・倉敷市
-------	---------------	------	------------

未来を見つめる若い力——AMDA中学高校生会の2024年度

AMDA中学高校生会は、AMDAの理念に基づき、災害・防災への取り組みや異文化交流など、国内外に目を向けた多様な活動を、中学生・高校生が主体となって実施している。

2024年度は、41人のメンバーで、月に一度の定例会のほか、以下の活動に取り組んだ。

AMDA中学高校生会オープンクラス2024春

◇実施場所：国際交流センター ◇実施日：2024年4月29日

◇参加者：AMDA中学高校生会メンバー18人/見学に訪れた中学生・高校生17人

AMDA中学高校生会オープンクラス2024夏 ～AMDA理事長とディスカッション～

◇実施場所：国際交流センター ◇実施日：2024年8月23日

◇参加者：AMDA中学高校生会メンバー20人/AMDA理事長 佐藤 拓史/
AMDA中学高校生会チーフコーディネーター 常原 拓真/AMDA職員1人

能登豪雨災害被災者緊急支援活動街頭募金

◇実施場所：岡山駅地下道 ◇実施日：2024年9月30日

◇参加者：AMDA中学高校生会メンバー9人/AMDAボランティア3人/
AMDA職員4人

倉敷国際ふれあい広場に参加

◇実施場所：倉敷市芸文館 ◇実施日：2024年10月13日

◇参加者：AMDA中学高校生会メンバー18人/
AMDA中学高校生会チーフコーディネーター 常原 拓真/AMDA職員1人

フィリピン台風被災者緊急支援活動街頭募金

◇実施場所：岡山駅地下道 ◇実施日：2024年11月28日

◇参加者：AMDA中学高校生会メンバー2人/AMDAボランティア2人/岡山倉敷フィリピーノサークル2人/
AMDA職員4人



2. こども食堂支援プラットフォーム

AMDAこども食堂支援プラットフォーム

2017年12月～継続中

受益者数	のべ約70の岡山県内の こども食堂や施設	従事者数	72人
------	-------------------------	------	-----

世代を超えた地域の居場所を提供

2017年12月にAMDAこども食堂支援プラットフォームを設立し、子どもから大人まで世代を超えた地域の居場所となる『こども食堂』などで、食事と社会参加の機会を提供する活動を行っている。

2024年度は18の企業・団体様から食料品や日用品（肌着、オモチャ、使い捨て容器など）の支援物資をいただき、のべ約70の岡山県内のこども食堂や施設に提供した。

さらに、物価高騰に対する支援として、AMDAより食品などの提供を行った。

また、今年度は夏休み特別企画としてプロバスケットボールチームの選手との交流イベントを開催した。

引き続き、子どもたちに物資だけでなく、教育や交流の機会も提供し、社会参加を促進する活動に努める。



新年度を迎えたインドの児童・生徒へ教科書を支援

2024年5月1日

受益者数	418人	実施場所	インド・ビハール州ブッダガヤ
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	エコラス・デ・ラ・テラ福祉団体、日本インド友好医療センタートラスト、AMDAピースクリニック		

教科書支援で子どもたちの学びを後押し

AMDAは、現地協力団体エコラス・デ・ラ・テラ福祉団体がビハール州ブッダガヤで運営する、サラスワティ・シシュ・ニケタン学校で、5月1日、新学期を迎えた園児・児童・生徒、計418人に最大6教科（ヒンディー語、英語、数学、科学、社会、サンスクリット語）の教科書を提供した。

インドの新年度は日本と同じく4月から始まる。この時期は大変暑く5月の平均最高気温は40度。ビハール州では暑さ対策のため、日中の外出禁止令が出されることもあるので、同州の多くの学校は早朝6時に始まり午前11時には終わる。通常、夏休みは5月の下旬から約2、3週間だが、気温によっては夏休み期間が延長される。今回の教科書配布も、このような事情から午前7時に始まった。

以前は教科書代を同福祉団体が50%、児童生徒が50%負担していたが、新型コロナウイルス感染拡大以降、多くの家庭で支払いが困難な状況に陥った。そこでAMDAは2021年より同校の児童生徒に対する教科書支援を行っている。

エコラス・デ・ラ・テラ福祉団体ラジェッシュ事務局長は「生徒の全員がAMDAから教科書、文房具、カバンをもらいました。とても感謝しています。今後も一緒に活動したいです。」と話した。



受益者の声

「クラスメートと話していると何度もAMDAのことを聞きました。友達に昨年もらった本やバッグを見せてもらいました。今日は僕ももらいました。とても嬉しいです。」

インドの児童・生徒へ制服、文房具などを支援

2024年5月30日

受益者数	150人	実施場所	インド・ビハール州ブッダガヤ
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	ジーナアミタップ福祉財団、日本インド友好医療センタートラスト、AMDAピースクリニック		

夢に向かう子どもたちへ、新学期の贈りもの

4月に新年度が始まるタイミングで、AMDAは現地協力団体ジーナアミタップ福祉財団がビハール州ブッダガヤで運営する無償寄宿学校に通う園児・児童・生徒、計150人に制服と文房具を提供した。また、多くの生徒が授業を受ける際、各自教科書を使用できるよう、各教室に保管している教科書の不足分も寄贈した。

同福祉財団の事務局長ビクラム氏は、「AMDAからの支援に感謝しています。おかげで、今回生徒に制服と文房具を渡すことができました。児童生徒の内、60人は寄宿学校で生活していて、残りの90人は自宅から通っています。各自の夢に向かって勉学に励む児童生徒も、新学期に新しい制服と文房具を貰って喜んでいました。」と話した。



受益者の声

「制服と文房具をご支援いただきありがとうございました。私の親は1日働いたら、お金をもらってくる生活をしており、経済的に苦しい生活を送っています。この支援が無ければ、教育を受ける機会がありませんでした。今は警察官になるために勉学に励んでいます。今後どうかご支援ください。」
「入学以来、勉強は順調で、学校では美味しい給食が出ます。エンジニアになる夢に向かって勉強しています。」

AMDAフードプログラム

2012年4月1日～継続中

実施場所	インドネシア・南スラウェシ州マリノ村
従事者 (AMDAマリノ農場)	現地農家（常時15世帯程度）、AMDAインドネシア支部

AMDAフードプログラムとマリノ農場の歩み

2012年、『食は命の源』の精神をモットーに始まったAMDAフードプログラムでは、アジア圏における有機農業の普及に取り組んできた。

岡山県新庄村で有機農法を学んだインドネシア人研修生が、帰国後、故郷である南スラウェシ州マリノ村にてAMDAマリノ農場を開設し有機農業を実践している。

AMDAマリノ農場

2024年に開設10周年を迎えたAMDAマリノ農場。この10年間、有機農業とオーガニック作物に対する生産者と消費者の理解を着実に広めてきた。昨今は、マリノ農場に共鳴して有機農業に転換する現地農家が徐々に増加。生産体制もある程度整い、これまで課題であった商品の販路拡大にも新たな兆しが見えてきた。

インドネシア国内で広く利用されているオンラインショッピングのプラットフォームを利用し、主力商品であるオーガニックの赤米を出品。

2023年12月には、同農場生産の赤米が現地の有機認証審査機関より正式に有機商品としての認可を受けた。



インド・ブッダガヤでの農業事業

2022年～継続中

受益者数	のべ85人	実施場所	インド・ビハール州ブッダガヤ
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	日本インド友好医療センタートラスト、地元スタッフ2人、AMDAピースクリニックスタッフ含むボランティア3人		

インド農業支援——ブッダガヤに実る支援のかたち

AMDAは2022年より、インド・ビハール州ブッダガヤ郊外にて農業事業を開始した。地元専門家の助言を受けながら、スタッフが協力して試行錯誤を重ねている。

収穫された野菜や米、香辛料は、母子保健事業のマタニティクラスでの軽食提供や、毎週火曜の食事支援に活用。一部は近隣住民にも配布され、感謝の声が寄せられた。



受益者の声

「家族の働き手が数日、仕事をお休みしていたので、あるもので料理を作らなければならぬ大変でした。今日は野菜をいただけたので豪華な食事ができます。」

2024年度の主な活動は以下のとおり：

- 4～6月：玉ねぎ、青唐辛子、ニンジン、インゲン豆の収穫、稲の苗づくり
- 7～8月：稲作、インゲン豆の収穫、トウモロコシ栽培、雨季野菜（ヘチマ、ゴーヤ、オクラ、ウリ）の種まき
- 9～10月：田んぼの管理、雨季野菜の収穫
- 11月：稲の収穫、ニンニク・玉ねぎの種まき
- 12～1月：ニンニク・玉ねぎ苗の育成、コリアンダー・ほうれん草の栽培
- 2～3月：玉ねぎの苗移植・管理、ニンニク・コリアンダー・ほうれん草の収穫

なお、今年の冬は暖冬の影響で気温が高く、冬野菜の生育に影響が出たが、適切な対応により無事に収穫を終えることができた。

インド・ブッダガヤでの食事支援『AMDAあおぞら食堂』

2023年1月～継続中

受益者数	毎週火曜日 60人から120人以上	実施場所	インド・ビハール州ブッダガヤ
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAピースクリニックスタッフ含むボランティア6人、AMDA本部、 日本インド友好医療センタートラスト		

ブッダガヤに広がる食のぬくもり『AMDAあおぞら食堂』

AMDAは2009年、インドでも最貧州の一つとされるビハール州ブッダガヤにおいて、AMDAピースクリニックを開院し、2014年より、地域の妊産婦を対象とした母子保健事業を実施している。ブッダガヤには、経済的に厳しい家庭も多く存在する。

2023年1月からは、同クリニックの周辺地域に暮らす住民を対象に、毎週火曜日の食事提供を開始した。

『AMDAあおぞら食堂』には、学校帰りの生徒や親子連れ、車いす利用者、オートリキシャーの運転手、工事現場で働く職人など、さまざまな人々が訪れ、毎週にぎわいを見せている。

メニューは季節に応じて変更し、酷暑の時期には夏バテ防止に効果があるとされる*サットゥージュースを、気温が下がる季節にはカレーと副菜を提供している。

なお、この食事支援の一部には、ブッダガヤ郊外でAMDAが栽培している香辛料、豆、野菜などの食材が活用されている。

*サットゥージュース…ひよこ豆を炒り粉にしたものに、塩、香辛料、レモン、水を加えたジュース



受益者の声

「材料の分量や新鮮さが大切。ここは、美味しい。」
「おかわり、おかわり！」

岡山近隣の大学生や留学生、在住外国人にお米を提供

2022年～継続中

受益者数	326人以上	実施場所	岡山県、広島県福山市
------	--------	------	------------

物価高騰下における外国人留学生ほかへの食糧支援活動

ネパールとフィリピンからの留学生、在住外国人、岡山県立大学、IPU・環太平洋大学の学生を対象に物価高騰に対する食糧支援として、AMDAが備蓄している玄米を提供した。

岡山県立大学では、玄米とレシピをセットとして153人に配布した。またIPU・環太平洋大学では、IPUフリースクールの子もたちが大学生とともに玄米の運搬や精米作業に参加。その後、全員で焼きおにぎりを楽しんだ。

岡山と福山在住のネパール国籍の留学生にもお米を提供。7キロを一人分として小分けにし、計173袋を配布した。

岡山ネパール協会は、「日本で懸命に学び続けるネパール人の若者たちの心の支えとなる。今回の支援が彼らの生活に希望を与え、前向きに歩む力となることを願う。」とAMDAに謝意を表した。

このほかAMDAは、倉敷を拠点とする在住フィリピン人組織、岡山倉敷フィリピーノサークルにもお米を提供。フィリピンの独立記念日を祝う集まりの際に、玄米300キロを寄付した。

いずれの団体もAMDAとは協力関係にあり、今回の支援はAMDAの相互扶助の精神に基づいて行われた。



インド・ブッダガヤ：熱波に苦しむ貧困世帯に扇風機を提供

2024年7月17日

受益者数	100世帯	実施場所	インド・ビハール州ブッダガヤ
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	ジーナアミタツプ福祉財団、AMDAピースクリニック		

暑さに苦しむ村民への扇風機支援

2024年5月下旬から6月にかけて、インド・ブッダガヤは熱波に見舞われ、最高気温が連日40℃を超える極めて厳しい気象状況となった。

このような状況下、経済的理由により就学が困難な子どもたちを受け入れている、現地協力団体ジーナアミタツプ福祉財団より、暑さに苦しむ村民への扇風機支援の要請がAMDAに寄せられた。

対象地域には電気が整備されており、政府補助により電気代も抑えられていることから、扇風機の使用が可能と判断。

AMDAは、扇風機または天井設置型ファンの提供を決定した。支援は、同財団の事前調査により選定された4村の貧困世帯を対象に実施。2024年7月17日、各世帯に1台ずつ、計100台の扇風機またはファンを配布した。



受益者の声

「この暑い夏に扇風機を買うことができませんでした。本当に必要なものを支援していただき、ありがとうございます。」

インド・ビハール州 井戸建設事業

2025年2月～3月末

受益者数	67世帯 650人	実施場所	インド・ビハール州 シュリプール村
事業チーム構成 (現地参加者を含む)	AMDAピースクリニック		

手で汲む水が、村をつなぐ——シュリプール村の新たな一歩

インド・ビハール州ブッダガヤのシュリプール村は、カースト制度の最下層に属するダリットが多く暮らす貧困地域であり、約67世帯・650人が生活している。停電が頻繁に発生し、電動ポンプが使えないため水不足が深刻であった。

こうした状況を改善するため、2025年2月7日より村近くのヒンドゥー教小堂付近に手押しポンプ式井戸の建設を開始した。

地質に恵まれ、33.5メートルの深さまで順調に掘削でき、ポンプ設置と盗難防止用の簡易小屋も整備し、3月末に工事は完了した。

完成後は、特に停電時に多くの村人がこの井戸を利用して水を運んでおり、「生活がしやすくなった。」との声が聞かれている。井戸を守り、大切に使い続けていくという意識も芽生えており、村の連帯感が一層強まったことがうかがえる。



受益者の声

「水は生活の中で一番貴重なものである。飲み水としてはもちろん貴重だがそれだけではなく、いろいろな場面で井戸水を活用している。支援者様とAMDAにありがとうございますと伝えていただきたい。」

■大学・専門学校等カリキュラム講義（50音順）

相生市看護専門学校、朝日医療大学校、岡山医療センター附属岡山看護助産学校、岡山県立大学大学院、玉野総合医療専門学校、鳥取看護大学、ノートルダム清心女子大学、福山市医師会看護専門学校、美作市スポーツ医療看護専門学校

■講義・講演（実施日順）

学校法人医療学園附属 東亜看護学院同窓会、国際ソロプチミスト岡山、創志学園高等学校、独立行政法人労働者健康安全機構岡山労災看護専門学校、枚方・交野を良くする会、岡山市立御津公民館、岡山大学歯学部、岡山県立岡山御津高校、岡山市立津島小学校、岡山西警察署、岡山市教育研究研修センター、倉敷市水島公民館、岡山県立倉敷中央高等学校、岡山医療福祉専門学校、新見公立大学、岡山市立岡山後楽館高等学校、岡山市医師会、成田コスモポリタンロータリークラブ、津山市立北陵中学校、IPU・環太平洋大学、徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校、岡山市立江西小学校、岡山市立福南中学校、倉敷市真備公民館、岡山赤十字看護専門学校、岡山県立津山東高等学校、鎌倉市災害ボランティアセンター連絡会議、旭川荘厚生専門学院、徳島大学医学部、岡山市立石井小学校、赤磐市障害者自立支援協議会、岡山市立富山小学校、岡山北西ロータリークラブ、真庭市民生委員児童委員協議会勝山支部

■インターンシップ受け入れ

- ・那須 千花（2023年10月～2025年3月）

■メディア出演

- ・RSKラジオ：天神ワイド朝「AMDA・命を救うラジオ」 毎月第4週火曜日
- ・FMくらしき：「困った時はお互い様 月刊 AMDA通信」 毎月第3金曜日

■主催イベント

- ・輪島支援報告会 IPU・環太平洋大学（2024年9月5日）
- ・能登豪雨災害被災者緊急支援活動街頭募金（2024年9月30日）
- ・フィリピン台風被災者緊急支援活動街頭募金（2024年11月28日）

■主な参加イベント

- ・岡山県中央メーデー 連合岡山・東部地協フェスタ（2024年4月27日）
- ・善通寺駐屯地記念式典（2024年4月28日）
- ・岡山発国際貢献推進協議会 事例発表会（2024年8月2日）
- ・おかやまコープフェスタ2024（2024年9月28日）
- ・倉敷国際ふれあい広場（2024年10月13日）



連携協力協定調印	
■国内連携協定調印	
IPU・環太平洋大学「地域社会及び国際社会への貢献と人材育成に寄与することを目的とした協定」	
2024年6月6日	

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）団体概要	
所在地	〒700-0013 岡山県岡山市北区伊福町3丁目31-1
設立年月日	1984年8月
	国連経済社会理事会「総合協議資格」取得 2006年
	認定NPO法人に認証 2013年5月8日付
AMDAグループ構成団体	特定非営利活動法人アムダ：AMDA AMDAインターナショナル（任意団体） 特定非営利活動法人AMDA社会開発機構 特定非営利活動法人AMDA国際医療情報センター アムダ兵庫（任意団体）
海外活動	緊急医療支援、避難民医療支援、復興支援、医療支援、友好病院支援、プライマリーヘルスケア、グローバル人材育成、フードプログラム、セミナー開催、AMDA40周年記念会議
2024年度活動国と地域	日本、ネパール、インドネシア、モンゴル、インド、ハイチ、ルワンダ、フィリピン、バングラデシュ、カンボジア、ウクライナ、ハンガリー、スーダン、台湾、アフガニスタン、ミャンマー
国内活動	緊急医療支援、復興支援、こども食堂支援、出張講演、大学講義受託、活動報告会、セミナー開催、AMDA中学高校生会、イベント参加、AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム準備 など
AMDA支部	沖縄支部、神奈川支部
AMDAクラブ	高知、福山、竹原、神女（神戸女子大学）各クラブ
スタッフ	常勤 7人 非常勤 4人 派遣 3人
会員数	532人
ERネットワーク登録数	695人
2025年5月31日現在	

特定非営利活動法人 アムダ（AMDA）役員		
理事長	佐藤 拓史	医師 モンゴル国立医科大学客員教授
副理事長	難波 妙	特定非営利活動法人アムダ
理事	秋山 仁	東京理科大学栄誉教授
理事	沖 陽子	岡山県立大学客員教授
理事	頼藤 貴志	医師 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 疫学・衛生学分野教授
監事	広田 眞美	医師 医療法人和仁会 福岡和仁会病院
理事	野島 治	2025年5月30日で退任
		2025年5月31日現在 (理事名 五十音順)

貸借対照表

2025年3月31日現在(単位:円)

資 産 の 部		負債・正味財産の部	
【流動資産】		【流動負債】	
現金預金	401,664,605	未払金	5,415,007
棚卸資産	3,220,592	前受金	137,000
前払費用	312,700	預り金	90,697
仮払金	4,494,386	流動負債計	5,642,704
流動資産計	409,692,283		
		負債合計	5,642,704
【固定資産】		【正味財産】	
有形固定資産	1,726,294	前期繰越正味財産	580,326,673
無形固定資産	80,167	当期正味財産増減額	△ 29,732,289
投資その他の資産	144,738,344	正味財産計	550,594,384
固定資産計	146,544,805		
		正味財産合計	550,594,384
資産合計	556,237,088	負債及び正味財産合計	556,237,088

活動計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで(単位:円)

【経常収益】			
受取会費		5,302,000	
受取寄附金		92,919,593	
受取助成金等		111,374	
事業収益		521,020	
その他収益		33,043	
経常収益計			98,887,030
【経常費用】			
【事業費】			
人件費		26,554,034	
その他経費		64,810,075	
事業費計			91,364,109
【管理費】			
人件費		21,484,433	
その他経費		14,388,473	
管理費計			35,872,906
経常費用計			127,237,015
当期経常増減額			△ 28,349,985
【経常外収益】			
固定資産売却益		99,699	
経常外収益計			99,699
【経常外費用】			
固定資産除・売却損		3	
棚卸資産除却損		1,482,000	
経常費用計			1,482,003
税引前当期正味財産増減額			△ 29,732,289
当期正味財産増減額			△ 29,732,289
前期繰越正味財産額			580,326,673
次期繰越正味財産額			550,594,384



インド・ビハール州ブッダガヤ AMDAピースクリニック母子保健事業

詳しい活動報告については
AMDAホームページに掲載しています



AMDA